

ブドウ‘藤稔’の二期作栽培に関する研究

丸尾勇治郎・山下泰生・大矢啓三

ブドウの二期作栽培技術の確立のため、‘藤稔’を用いて二期作栽培の生育特性について調査し、剪定、ホルモン処理および長日処理が樹体と果実品質に及ぼす影響について検討した。

1. ‘藤稔’の一期作目の剪定を 12 月上旬(加温開始期:12 月中旬)に行うと一期作目の収穫盛期は、剪定後 164 日後(5 月中旬)であったのに対し、二期作目(剪定:6 月下旬)は、剪定後 125 日後(11 月上旬)と生育期間が短くなった。一方、樹体に対する影響について見ると、新梢長・新梢基部径・第 5 節葉の葉面積は、いずれも一期作目に対して、二期作目は約 15%抑制された。また、果実品質についても一期作目に対して、二期作目の一粒重は 37%抑制されたことから、果房重は小さくなった。

2. 二期作目の剪定程度は、2 芽剪定に比べ 6 芽剪定をすることにより、新梢当たり着花数が増加し、花芽形成も良好となった。

3. 果実品質向上のためのホルモン処理は、慣行の GA25ppm 区に比べて、一期作目では、GA25ppm+KT5ppm 区または KT10ppm 区で、また二期作目では、GA25ppm+KT10ppm 区で一粒重の肥大効果が顕著であった。

4. 長日処理は、新梢の伸長促進および果粒の肥大効果が認められるが、熟期が遅れる傾向が認められた。光源の種類では、メタルハライドランプが最も効果が高く、次いで白熱球、蛍光灯の順であった。また、60lux 以上の蛍光灯による二期作目の秋期長日処理は、葉中のクロロフィル含量を高く維持し、葉の老化を抑制するため、翌年の花芽形成を促進し、収量が向上した。

キーワード:ブドウ,二期作栽培,藤稔